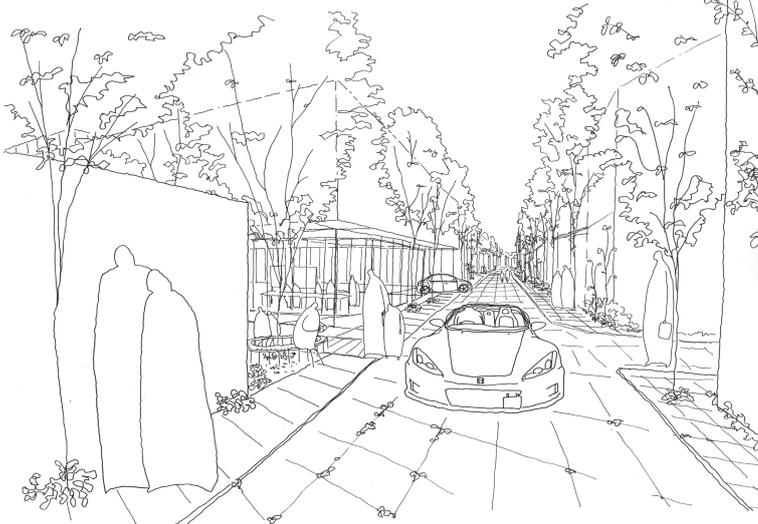
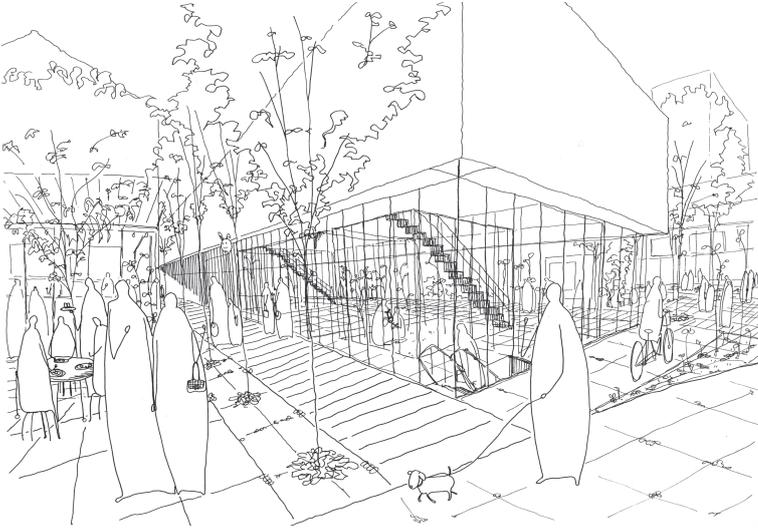


sprout

新芽

商店街活気衰退の原因の一つ、店主の高齢化による商店街全体の更新代謝悪化に対して、街を若返らせるための新しい風(sprout・新芽)を吹き込むことで、時間をかけて街の活気を改善していく。

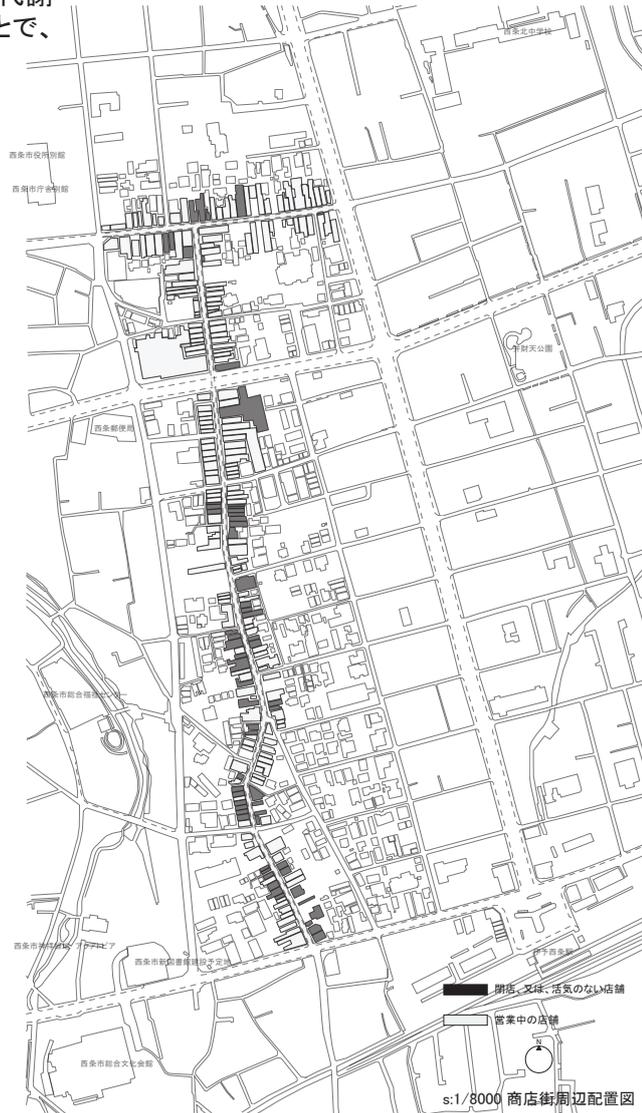


種(背景)

- ・ 雑然としたアーケード商店街、その裏の空間に、新しい魅力を生み出す可能性を感じる。
- ・ 「まちづくり三法」の改正をはじめ、中心市街地を基点とした「コンパクトシティ」構築に向けての社会的な流れがある。

現況

- ・ 周辺住民の移動手段の多くが自動車となり、その利便性の良さから、郊外の大型スーパーに顧客が集中している。
- ・ 個人店主の高齢化が商店の新陳代謝を阻み、商店街全体の活力衰退へと導いている。



問題点

- ・ 心地良い生活環境の欠如(緑地不足)
- ・ 自動車を利用する人にとって不便
- ・ 個人店主の高齢化
- ・ 通りが単調であり、面白みに欠ける
- ・ 通りが単調であり、面白みに欠ける

対策

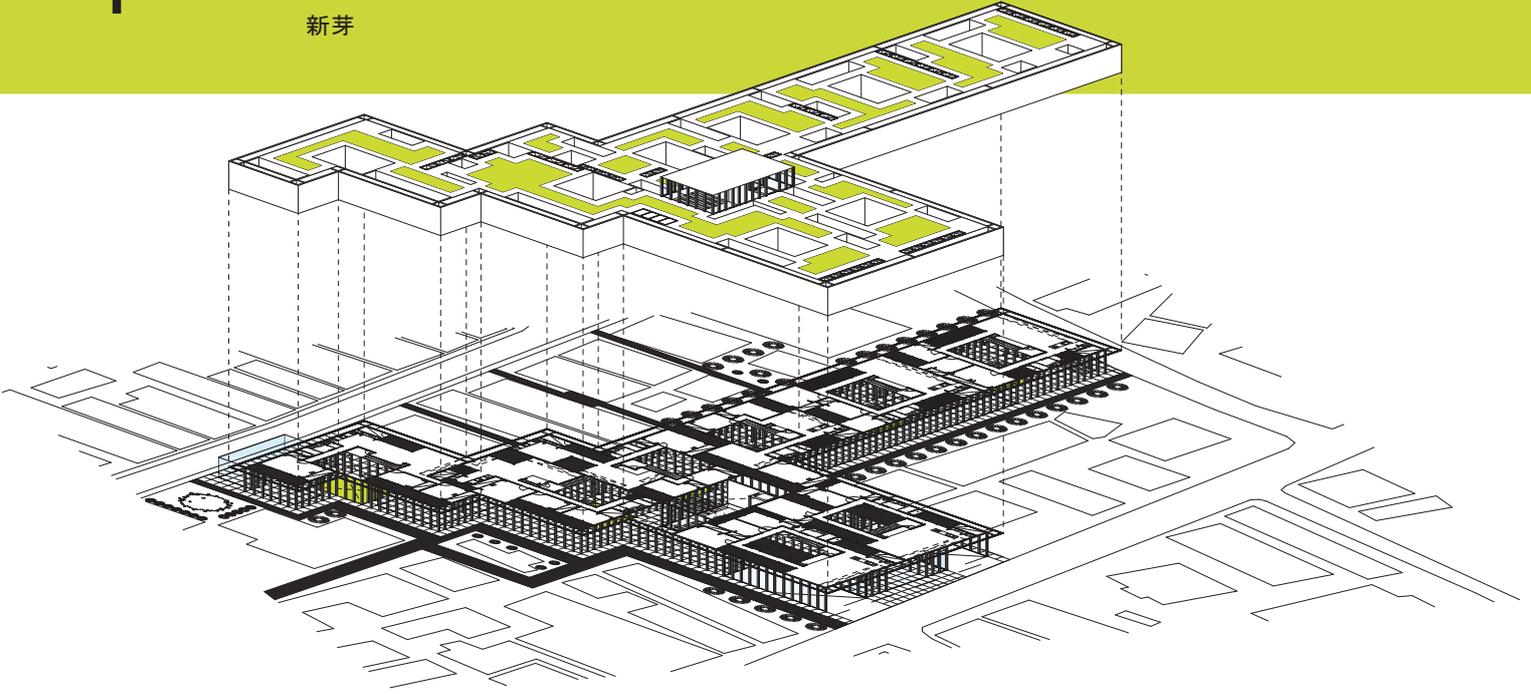
- ・ 時間をかけて、ゆっくり、自然発生的に改善していく
- ・ 若い世代の住民を増やす
- ・ 商店街のイメージを一新
- ・ 商店街は消費者の選択の幅を広げる
- ・ 「歩く」・「自転車」の今で言う健康指向(志向)に沿った方向にしていく

種から新芽、そして開花に導く

1. 「散歩道」の計画
さらに、計画範囲を広げ、商業地域の区画を一つの大きな公園施設として捉え、その中にいくつもの「散歩道」を設けていく。
2. 「集合住宅」の計画
街を若返らせる、集合住宅、および、新たな起業を誘発する場を計画する。

sprout

新芽

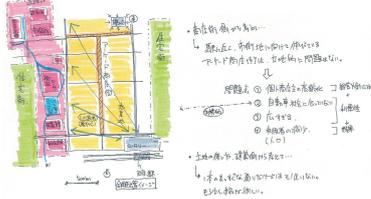


概要

- ・ 商店街の活性化、及び、コンパクトシティの実現に向け、計画全体の起点となる建築物の創造
- ・ 1階を商店街・散歩道の延長空間、2階を居住スペース、屋上を緑化公園
- ・ 街を若返らせるため、若年層の核家族が対象

公共施設と共にある場所

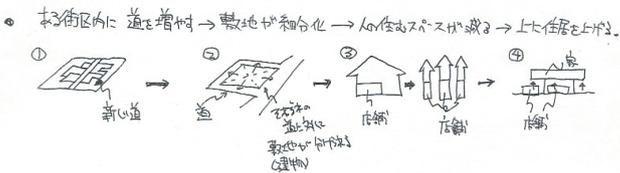
- ・ 公共交通機関を利用する場合、生活に便利な立地条件である。
- ・ 市役所、文化会館、福祉センター等、公共施設に近い
- ・ 自動車が基本的に通らず、安全に利用できる
- ・ 近隣に様々な店舗があるので買い物に便利
- ・ 雨天時、傘をささずに買い物ができる



居住環境を上げる

敷地の細分化により、1階レベルでの生活が困難

- ・ 居住環境を2階レベルに上げる
- ・ 1階に生まれた余地は「新たな起業を誘発する小広場」及び「散歩道」とする。



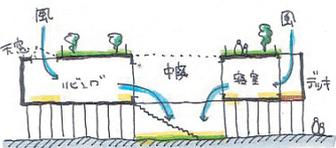
住環境は上下に絞る

- ・ もともと建蔽率、容積率の高い土地であることから、水平方向からの採光・通風を多くは望めず、これらを住居の上下からのみ取り入れる方法をとる。
- ・ これには、住居を2階レベルに持ち上げているため、効果が倍増する。

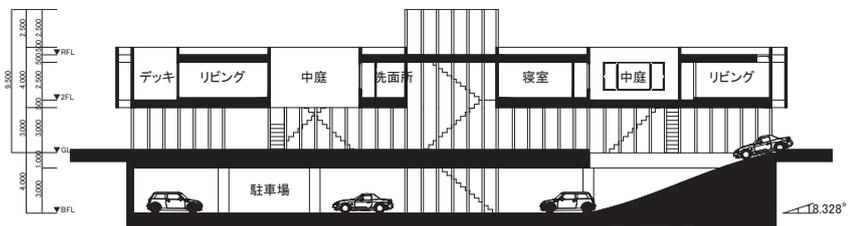


中庭を中心としたプラン

- ・ 住居プランは中庭を中心とし、ここに向けて各居室を配置する。
- ・ 中庭から遠い部分にデッキテラス、および、トップライト(天窗)を設け、光を取り入れる部分の表面積を増やすと同時に、中庭下位に向けて風が流れ落ちていく仕組みとする。



壁に囲まれている
光が入り、風が抜けるシステム

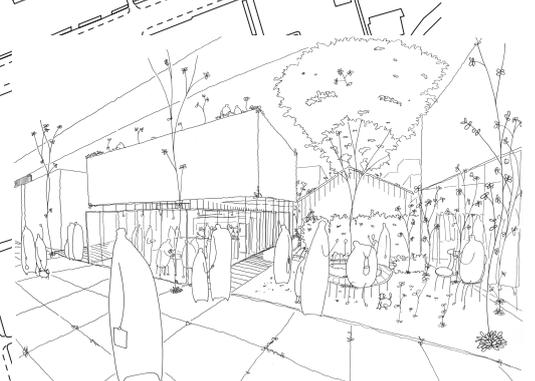


s:1/500 A-A'断面図



緑のある散歩道を張り巡らす

- ・新たな生命(緑・店舗等)を吹き込み、長い時間をかけて商業地域の活性化に繋げていく。
- ・道は敷地に対して、「点」ではなく「線」で対応するためその影響力は大きい。アーケード商店街という「線」の対称に寄り効力を持つ形は、「点」施設単体の計画ではなく、「線」全体計画を基にした、あるシステムでの対応であると考えた。



- 営業中の店舗
- 伊予高条駅
- 散歩道の起点となる店舗、又は、敷地
- 散歩道、又は、小広場としての計画地
- アーケード商店街
- 集合住宅計画地



1/4000 商店街周辺配置図

